

富士見市公共施設へのCO₂フリー電気の供給について
～「富士見市ゼロカーボンシティ」の実現に向けた包括連携協定に基づく取組み～

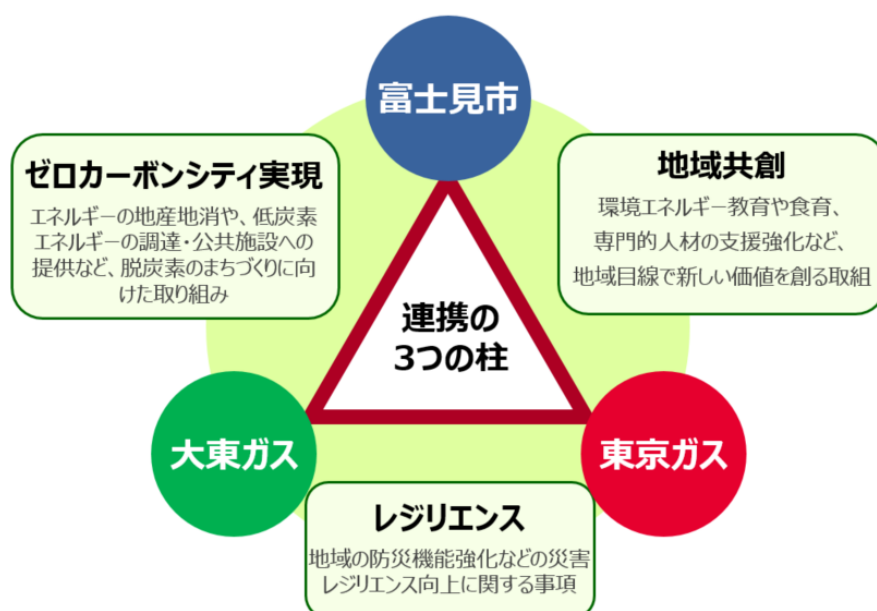
大東ガス株式会社（代表取締役社長：高嶋 英一）は、当社が供給する電気に、再生可能エネルギー由来の非化石電源で発電した電気が持つ環境価値（CO₂が排出されないこと）を証書化した「非化石証書」を付与することで、CO₂の排出量を実質的にゼロとするCO₂フリー電気を、2025年10月使用分より、富士見市の公共施設44か所に供給を開始いたします。主な供給先は公民館・排水ポンプ場・排水機場で、合計年間電気使用量は約76千kWh、年間で約30tのCO₂削減量が見込まれます。

本取組みは、富士見市における「富士見市ゼロカーボンシティ」の実現に向けた包括連携協定（※）に基づくものであり、富士見市の公共施設にCO₂フリー電気をお届けすることにより、CO₂の削減に貢献してまいります。

大東ガスグループでは、事業活動を通して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献していくことを目標に掲げています。

今後についても、環境性の高いエネルギーを積極的にお届けしていくことで、脱炭素化社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

※富士見市（市長：星野 光弘）、東京ガス株式会社（社長：笹山 晋一）、当社が相互に連携し、「カーボンニュートラル」「レジリエンス」「地域共創」等の観点から、富士見市における「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、2024年2月13日に3者で締結した協定。



包括連携協定イメージ